

出席者等

懇談会の地区代表者	平坂小校区：浦杉哲男代表町内会長
校区代表町内会長	中畑小校区：中根光知代表町内会長 矢田小校区：古居節男代表町内会長
地区関係市議会議員	神谷庄二議員、稲垣正明議員、中村眞一議員、松崎隆治議員
市関係者	中村市長、長島副市長、尾崎教育長、 近藤企画部長、宮地企画部次長、齋藤企画部次長、 高原総務部次長、長谷資産経営戦略局長、小塚危機管理局长、 大西健康福祉部次長、青山子ども部長、荒川地域振興部長、 金原産業部長、牧環境部次長、渡邊建設部長、 市川上下水道部長、木村市民病院事務部次長、 新實教育部次長、岩瀬消防次長 事務局：細田秘書課長、岩瀬秘書課長補佐ほか3名
出席者数	市民63人、地区関係市議会議員4人、市関係者24人、 報道関係者2人
事前意見・質問等	整理区分7件 内訳：質問4、要望3
自由意見等	整理区分10件 内訳：意見4、質問4、要望2

平成29年度 「市長と語る市政懇談会」(平坂地区)

○細田秘書課長

皆様、こんばんは。私は、この懇談会で事務局を務めます秘書課の細田でございます。よろしく申し上げます。

それでは、お時間になりましたので、ただいまから「市長と語る市政懇談会」平坂地区を開催いたします。

初めに、本日の出席者をご紹介します。

この懇談会の開催にあたり、多大なるご協力を賜りました平坂地区の代表町内会長の皆様で、平坂小校区の浦杉哲男様、中畑小校区の中根光知様、矢田小校区の古居節男様でございます。

また、市議会からは、神谷庄二議員、稲垣正明議員、中村眞一議員、松崎隆治議員、県議会からは、山田たかお議員、以上の皆様にご出席をいただいております。

そして、市からは、中村市長を始め、長島副市長、尾崎教育長、そして関係部局の部長、次長が出席をしております。どうぞ、よろしく申し上げます。

続きまして、本日の予定をご案内いたします。

この後、15分程度のお時間で、市長が市政運営についてお話を申し上げます。その後、平坂地区から事前にお伝えいただきましたご意見やご質問などに対して、市から回答をさせていただきます。

また、これら地区とりまとめのご意見とは別に、参加者の皆様から広く意見等をお聞きする自由意見交換の時間も設けておりますので、まちづくりに対するご提案やご意見、その他、地域の困り事や関心事などがございましたら、ご発言をいただきたいと思えます。皆様との懇談のお時間は午後8時15分までとさせていただきます、その後、若干の事務連絡を申し上げて閉会といたしたいと思っておりますので、ご協力をお願いいたします。

なお、記録用として、懇談会の音声録音と写真撮影をさせていただきます、懇談会の記録は、準備でき次第、公開をさせていただきますので、よろしく申し上げます。

それでは、市長、よろしく申し上げます。

○中村市長

皆さん、こんばんは。市長の中村健でございます。

日ごろは、市政各般にわたりまして、ご理解とご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。

また、本日は平坂地区の市政懇談会を開催させていただきましたところ、平日の夜にもかかわらず多数の方々にご参加をいただきまして、ありがとうございます。

この市政懇談会は、西尾市では2年に一度行っているものでありまして、活字だけでは、なかなか伝わらないこともたくさんございますので、こうして顔を合わせる中で、ご質問だとかご意見をいただいて、それに対して市の考え方をお示しさせていただくというところが意義の大きなことかなというふうに思います。

事前にいただいているものと当日いただくご意見がありますけれども、市としての回

答の内容だけではなくて、考え方とか思いという部分も聞き取っていただく中で、お互いにいいコミュニケーションを図りながら懇談を進めていければいいかなと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、市政運営についてお話をさせていただく前に、この平坂地区におきましては、伝統行事ですとか地域の資源をPRするイベントですとか、また地域のことを次の世代に伝える活動などが、地域の皆様方のお力で行われておりまして、大変すばらしいことだと思っておりますので、幾つか紹介させていただきます。

まず1点目ですが、県の無形民俗文化財になっております「田貫の棒の手」、こちらは雨天により中止となってしまいましたが、10月15日に予定されておりました伝統の秋祭りです。毎年多くの方々が楽しみにしているものでもありまして、今後とも末永く伝統を引き継いでいただきたいというように思っております。

そして、同じく10月15日、こちらは中畑町のほうになりますが、市の指定無形民俗文化財でもあります「おまんこ祭」が行われました。こちらでも、西尾市を代表するお祭りでありまして、ぜひとも次の世代へと残していただきたいというように思っております。

3つ目として、少し前になりますけれども、8月13日、14日、矢田小学校区コミュニティ推進協議会の皆様によりまして盆踊り大会が行われました。私自身も参加させていただきましたけれども、各地で地域コミュニティの力が弱っている中で、こうした地域の皆様方が力を合わせて地域のためにというところで行事を企画していただくことというのは、大変ありがたいと思っておりますし、そうした中で、多世代のつながりを今後とも大事にしていただきたいというように思っております。

以上、3点紹介させていただきましたので、開催にご尽力いただきました皆様、ありがとうございました。

それでは、市政運営について、お話をさせていただきたいと思っております。

私が市長に就任をいたしまして、これで4か月ちょっとが経ちました。就任日は7月5日でありましたけれども、7月14日に臨時の議会を開いていただいて、そこで所信表明を述べさせていただきました。所信表明というものは、いわゆる任期であります4年間、こういうかじ取りをしていきたいという方針を示すものでありまして、三本柱の内容があるのですけれども、本日はそれについて少し内容を深めながらお話をさせていただきたいというように思います。

その三本柱の内容についてですが、1つ目が、市民主役のまちづくりというものでありまして、2つ目が、少子高齢化と人口減少への対応、そして3つ目が、厳しい財政状況を乗り越えるための徹底した行財政改革というものになっております。

まず1つ目の、市民主役のまちづくりについてでありますけれども、時代が時代でありますので、いろいろな市町村で市民参加ですとか市民主役ということはよく言っているわけでありまして、では、実際にこれをどう機能されるかというところが一番大事なところでありまして、選挙戦の期間中もその前の期間も、この平坂地区も含めて、市内をくまなく回らせていただきました。その中で、若い方からお年寄りの方まで、たくさんの意見交換というか、ご意見を頂戴したわけでありまして、一番多かった声と

というのは、やはり市民の立場からは行政という存在が少し遠いというニュアンスのご意見が多かったように感じます。何かお困りのことがあったり、要望などがあっても、少し敷居が高いというところで、やはり行政の職員というのは、市民の方々にとって、身近で頼りになる存在でありたいというように思っております。

そういう中で、コミュニケーションをしっかりとりながら、身近な存在として、何かあったときには気軽にお声をかけていただけるようなそうした存在になっていくことが必要かなと思っております。その中で特に大事だと考えているところがありまして、1つには、市民参加というものをどう進めていくかというところでもあります。市が何か新しい事業を始めますというときに、決まったことを説明するということも確かに大事であって、それはそれでやってきてはいるのですけれども、それとは別に、決まる前の段階で、こうしたことを考えているのですが、市民の皆さんはどう思いますかとか、一緒に考えましょうといったスタンスで、皆さんと一緒に、決定をする前の段階でご意見を伺いながら考えていくということが、これからの時代はますます大事になってくると思います。

当然、100人いらっしゃれば、100通りのご意見がありますので、全て反映はできないわけでありましてけれども、市が一方的に決めて、決まったことをお知らせするというのではなくて、一緒に考えていこうというスタンスが自分自身は大事だと思っております。そうした取り組みを進めていきたいというように思っているところでもあります。

あとは、市役所などに市民の皆さんが来ていただいたときに、当然、私たちは仕事として対応させていただくわけでありましてけれども、やはり人と人とのコミュニケーションでありますので、変な壁をつくるわけではなくて、心の壁を取り払った形で職員一人一人がしっかり対応できるようにということを心がけていきたいと思っておりますし、それは、自分自身だけの心がけではなくて、行政職員一同としてそれができるようにということを私自身も指示しているということでありまして、一朝一夕でできることではないかもしれませんが、少しずつ少しずつ変わっていく中で「ああ、何か市役所の職員は、身近で頼れるようになったなあ」と皆さんに思ってもらえるような職場づくりをしていきたいというように考えています。

それと、この市民主役というところで、もう一つお伝えしたいことが、先ほど少し矢田小学校区の盆踊りのところでも紹介させていただきましたが、地域のコミュニティの力をどう維持して、どう高めていくかというところが非常に重要になってくるというように思います。私たち行政の職員も、まちづくりに対して担う役割は大きいわけですが、やはり地元の方々がどう生き生きと多くの方を巻き込んで、そのまちづくりに励んでいけるかというところが一番大事だというように思います。幸いにも、西尾市などを見ていると、特に60代、70代の方々がすごくお元気でいらっしゃるので、その方々に頼ってしまっている部分もあるのですが、では1つ下の世代の人間が後継として育っているかという、なかなか苦労している地域が多くございます。その1つ下の世代というのは、いわゆる僕と同じ世代になりますけれども、親が同居していれば、世帯主が親になりますので、なかなか地域とのつながりには親が出て行ってしまって顔ができなかったり、結婚して独立すれば、自分が世帯主になりますので、そうした顔もできるの

かなと思いますが、基本的には厄年などの40歳前後で、もう1回、地元のみんなど会って地域のことを話すくらいが、多分地域のことを考える一番最初の時期ではないかと思うのですが、一番エネルギーで、力も頭も働く、30代、40代をいかにして地域の行事に巻き込んでいくかというのが、すごく大事だと思います。なかなか、これをやれば大丈夫でしょうというものが、まだ僕の中で明確にあるわけではないのですが、少しでも地域の活性化のために、そうした若い世代に関心を持ってもらって、巻き込んで一緒にやっていただけるようなそうした取り組みというのは進めていきたいというように、すごく問題意識を持っているところであります。

そして、2つ目の少子高齢化と人口減少への対応というところですが、これについては、日本全体が抱える一番大きな問題であります。人口が減少して、何が悪いんだというのは、なかなか実感では分かりにくいところではありますが、私たち行政からすれば、税収が落ち込むですとか、企業からすれば、物が売れなくなるですとか、また社会保障における現役世代の負担が増えるとか、本当に多くのことが懸念されておりまして、要は、江戸時代、もっと前から人口が増えてきていて、減少局面に入るというのは、基本的に有史以来初めての状況でありまして、それに対してどう対応していくかというのは、本当に西尾市も含めて大きな問題であると思っています。

近年、政治の世界で地方創生という言葉が、この二、三年言われているわけですが、この地方創生というのは、そうした人口減少に対して危機感を持っている中で、では、どう国として、地域として人口を維持していくんだというところに問題意識がありまして、1つには、産まれる子どもの数を増やしましょうということもあるのですが、地域からすれば、それ以上に、他のまちから自分のまちに住んでもらう人口をどう増やすかということがすごく大きな課題になってきます。そうすると、これまでの時代のように、他の自治体があなまちがやっているからうちもやりましょうとか、ほかのまちがやっていないならうちもやめましょうということではなくて、ほかのまちがやっていないからうちもやりましょうという発想の転換が求められてきます。言ってみれば、そのまち独自の魅力というものを磨いて、高めていく中でまちづくりをしていくというところが一番大事になっていくわけですが、では、その地方創生というのを進めていく中で、自分自身といたしましては、3つの着眼点を持っております。

1つ目が、住みたいまちという観点で、2つ目が、働くことのできるまち、そして3つ目が、訪れたいまちという観点であります。

住みたいまちというところについては、いわゆる子育て世代と呼ばれる、30代、40代の人口を増やすことが非常に大事になってくると考えております。

理由といたしましては、消費をする額も大きいですし、税金も、現役世代なのでしっかり払っていただくということで、この世代をいかに増やすかということになってくると、やはり、今、全国的にブームになりつつありますが、子育てをしやすいまちづくりをいかに進めていってPRするかということが大事になってまいります。

そうした中で、私自身の公約なども含めて紹介させていただきますと、結婚はしたけれどもなかなか子どもに恵まれない家庭というのが近年増えていまして、そうした家庭に対して、医療の力を借りて不妊治療などをされている家庭もたくさんございますので、

そうしたところに対して助成を今よりも拡充するとか、あとは子どもが生まれているのだけれども、核家族で、両親が共働きで子どもが熱を出してしまったときなどに、なかなか対応ができないというときに、病児保育のサービスがあれば子どもが預けられますし、そうしたきめ細かいサービスをたくさんやっていくことが実際には大事だろうということで、そうした切れ目のない子育て教育環境を整えることが大事だというように考えているところであります。

それと、住みたいまちというところで、もう一つお伝えしたいのが公共交通の分野でありまして、市街地周辺については、電車もありますし、割とバス路線なども充実していますので、交通という部分では余り困らない地域なのかなと思っていますが、これで合併をして7年目になりますが、今の西尾市全域を見ますと、公共交通が不便な地域がたくさんございます。これまでも何箇所か市政懇談会をやってまいりましたが、やはり公共交通に対する期待ですとかご要望というのは多くて、特に社会的な風潮として、高齢者の方は免許を返納すればいいのではないかというようなことが言われていますが、実際に免許を返納してしまって、車が運転できません。毎日の生活をどうするのでしょうかといったときに、今の西尾市で見ると、困る方がたくさんいらっしゃると思います。

ですので、例えば日用品を買いに行くとか、けがとか病気をしたときに医療機関にかかるとか、そうしたところについては、免許をお持ちでない方に対しても、できる限り不便を来さないように、公として公共交通をしっかりと充実させるというのは大変必要なことだと思っておりますし、これは自分自身でも特に力を入れていきたい分野でありますので、ちょっと時間はかかるかもしれませんが、今、市全体の公共交通の体系を見直してくださいということで、担当部署に指示を出しているところでありますので、ご承知をいただければと思います。

そして、2つ目の働くことのできるまちというところについては、産業の活性化といいますか、競争力を高める、そして雇用をしっかりと生み出すということが一番重要となってくると思います。この西尾市は、西三河エリアの一角になりますので、自動車関連産業の恩恵を受けておりまして、非常に雇用がしっかりしております。その利点はしっかりと生かしつつ、その一方で、農業ですとか漁業などの一次産業が盛んな地域であるというのが西尾市の1つの特徴だと考えております。

なので、ものづくりの二次産業と農業などの一次産業のバランスのよさを生かしながら、攻めていく産業については、そうした先進的な取り組みをしているところに対して支援をするとか、また農業とか漁業でも守らなければいけないところというものもありますので、それは公としてしっかりと守っていききたいと思っております。

特にアサリ漁業などについては、ここ一、二年、漁獲量が壊滅的に落ちておりまして、この状況がもう二、三年続いてしまうと、アサリの漁師さんがもういなくなってしまうのではないかとというくらい大変な状況になっておりまして、そういうところなどが守っていかないといけない例だと思っております。今のところ明確な原因などがつかめていない部分もあるのですが、漁業協同組合とか愛知県などと協力しながら産業を守っていききたいというように考えているところであります。

そして、3つ目の訪れたいまちについてであります。これは、一言で言えば、観光

にいかに入力を力を入れて取り組んでいくかというところが大事かなと思っています。合併をした西尾市の大きなメリットとして言われてきたのが観光でありまして、実際のところ今の西尾市をみますと、抹茶ですとかウナギ、えびせんべいなどのいわゆる特産物というものには、日本を代表するようなものがたくさんございますし、市街地のほうは、六万石城下町としての歴史などもありますし、また温泉とか、吉良家ゆかりの名所旧跡とか、豊富に自然に残っている地域なんかもありますし、そうした意味では、多種多様な観光資源があります。これは本音で思っているのですけれども、これだけ豊富な観光資源があるまちというのは、なかなか探してもありません。愛知県で観光地というと、蒲郡市とか犬山市とかを思いつく方が多いかと思いますが、そうしたまちに負けないだけの力を持っておりますので、あとは西尾市民が苦手だといわれますPRをいかにしっかりやっていくかというところだと思います。そこについては、西尾市観光協会という組織があるのですが、そうした民間の組織ですとか、あとはグルメについて携わっている一軒一軒のお店とか団体とか、旅館、ホテルなどとも協力しながらしっかりとPRしていくことで、訪れたいまちとしての魅力も高めていきたいというように思っているところでもあります。

そして、所信表明の3点目の行財政改革についてであります。現在、西尾市の一般会計と呼ばれます、いわゆる西尾市の財布というのが、大体550億円の予算規模であります。そうした中で、合併をしたことで特別にもらえていた合併算定替えと呼ばれます交付税、国からもらえる額が、本年度から段階的に減らされていきます。5年後には二十数億円、今よりも入ってくるお金が減ると見込まれておりますので、予算全体の5%くらいは入ってくるお金が減ってしまいます。それに対して、どうやりくりをするのかというのは、現在、来年度予算の編成に向けての真っ最中でありまして、本当に厳しい状況でありまして、1つには、企業誘致ですとかふるさと納税とかに精力的に取り組んで、入ってくるお金を増やそうというのも当然大事でありまして、そうしたところに取り組んでいくのはもちろんであります。その一方で、時代的にニーズが下がってきた事業については、事業を縮小したりですとか、事業を廃止したりとかということも考えていかなければならない状況にあると思っています。

ですので、できる限り新規の必要な事業もやっていく中で、必要性が少なくなってきたと思われる事業については、そういった考えでありますので、市民の皆さんに対して場合によってはご苦勞をかけるといいますか、不便をかけることもあるかと思いますが、そうした財政状況にあるというところで、ご理解をいただきたいというように思っているところでもあります。

三本柱については、今、ご説明させていただいたとおりであります。それ以外に私自身が選挙の中で掲げた政策の特に大きなものといまして、西尾市方式PFI事業の見直しというものと産業廃棄物最終処分場建設への反対というものがあります。時間が限られておりますので、要点だけになります。PFI事業のことについては、民間のノウハウとかお金を利用して公の事業を進めようというものであります。西尾市が進めるものについては、総額約200億円で最長30年の期間になります。プールですとか市営住宅とか、あと公民館のような施設ですとか体育館のようなものですとかそうし

たものを建設していこうというものでありまして、それに対してなぜ見直しを掲げたかといいますと、1つには市民の皆さんのご要望とかご意見がないがしろにされてきたと僕は思っておりますので、もう1回、しっかり丁寧に市民の声を聞きたいと考えていることが1つ。もう一つは、先ほど申し上げましたように、今後非常に財政が厳しくなっていく中で、本当に200億円をその事業にかけるだけの必要性があるのかということ、私自身は、必ずしも必要性が高いとは言えないものも入っていると思っておりますので、そこは市民の皆さんのご意見を聞きながら、事業の縮小を図っていく中で、財源的に確保をしていきたいというように思っているところであります。

契約がスタートしているわけでありまして、現在、工事を一旦中断させていただいて、事業者側との交渉については、弁護士に委任をしているわけでありまして、工事を中断している期間に皆様方のご意見を聞かせていただくということで、11月16日に吉良で、17日に一色で意見交換会を行わせていただいて、その後に寺津ですとか市役所などでも説明会をさせていただきますので、お時間があれば、ぜひお越しいただいて、声を聞かせていただきたいと思っております。

それと、本日の会場の入り口のところでも黄色いジャンパーを着た方々がいらっしゃったと思いますが、これについては、その産廃処分場として計画されているのが一色の生田地区というところで、海辺のところになるのですが、どうしても、その計画地から離れた方々にとっては、一色の問題だとか、生田の問題だということで、なかなか西尾市の問題として捉えていただけない部分があるのですが、これについては、自分自身も含めて、西尾市として建設反対の姿勢を示しております。

理由といたしまして、1つは、三河湾は非常に漁業が盛んな地域であるということ。そういった処分場ができることよっての風評被害もございますが、あの沿岸一帯というのは、大きな地震があった際に液状化が大変心配される地域でありまして、地震が起こって、液状化によって、入っていたものが海に流れ出してしまったら、本当に三河湾全体に取り返しのつかない被害が出てしまいかねないことですから、何としてでもその建設は止めようということで、今、市を挙げてといいますか、市としてしっかりと反対の姿勢を示して、何とか建設がされないように思っているところでありますが、これについては、市民の方々のお力が大変必要になってまいります。そうすると、この平坂地区においてもそうですが、西尾市の問題として、その生田地区というところに産廃処分場ができてしまうと大きな損害をこうむるところを理解していただいた中で、今後、運動なども展開していくことが考えられますので、ご理解、ご協力をいただければというように思っております。よろしく願いいたします。

以上で、市政方針についての話とさせていただきます。ありがとうございました。

○細田秘書課長

ただいま市長からお話のありました市政運営に関してご質問などがある方は、後ほど設けます自由意見交換のお時間の中でご発言いただくことといたしまして、次に、平坂地区から事前にご提出いただきましたご意見や質問などに対して、市から回答をさせていただきます。

ここからは、今回の懇談会で、平坂地区の代表者としてお力添えをいただいております平坂小校区の浦杉会長に進行をお願いいたします。本来ならば、市の主催ということで、市の職員が司会進行を務めるところであるかとは思いますが、この懇談会では、堅苦しくなく、活発なご意見等をお出しいただけるよう、地区のことをよくご存知の町内会長様に進行役をお願いしております。

それでは、浦杉会長、よろしく願いいたします。

○司会（浦杉会長）

改めまして、こんばんは。平坂小校区代表町内会長の浦杉でございます。着座にてお話しさせていただきますので、よろしくお願い致します。

皆様には、日ごろより大変お世話になり、また住みよいまちづくりにご尽力いただきまして、ありがとうございます。心よりお礼申し上げます。そして、今日は足元の悪い中を、この懇談会にご参加いただきましたことも、あわせてお礼申し上げます。

さて、本日は、市長を始め、市役所の幹部の皆さんに直接声をお届けできるという良い機会でございます。限られた時間ではございますが、平坂地区、さらには西尾市を住みよいまちにしていくために、有意義な意見交換ができればと思っております。

それでは、ご指名を受けましたので、これから私のほうで進行をさせていただきますので、どうか進行にご協力いただきますように、お願い申し上げます。

初めに、平坂地区から事前にお伝えした意見や質問に対して、市からご回答をいただきます。限られた時間で効果的に懇談会を進めるために、あらかじめ5件の意見などをお伝えしてございます。これらについては、意見等を提出されました町内会の方に内容を読み上げていただきます。

なお、市からの回答についての再度のご意見、あるいはご質問は、全ての回答が終わった後にお聞かせいただきますように、よろしくお願い申し上げます。

それでは、1件目を中畑小校区代表町内会長の中根様、お願いいたします。

○中畑小校区代表町内会長（中根会長）

こんばんは。よろしく願いいたします。中畑小校代表町内会長の中根です。

読み上げさせてもらって質問とさせていただきます。

中畑地区におけるコミュニティ活動の拠点となる、ふれあいセンターの整備に関しては、平成28年度に基本構想が取りまとめられ、今後は、この基本構想をもとに、基本計画、実施計画、工事着手・完成と着実に進められることを望みますが、今後のスケジュール、具体的な建設計画はどのようになっているかをお示しいただきたいと思っております。

○司会（浦杉会長）

市長、お願いいたします。

○中村市長

中根さん、ご質問ありがとうございました。

1 件目、中畑地区のふれあいセンターの整備に関する進捗状況について、お答えをさせていただきます。

中畑地区のふれあいセンターの整備に関する基本構想につきましては、市の公共施設再配置計画ですとか、財政面を考慮しながら、建設する用地や、公民館機能と複合させる機能等を検討し、国の補助制度を活用できる方法を考えながら策定に当たってまいりました。

今後のスケジュールといたしましては、まず建設用地の確保や、整備に必要な予算の確保に努めてまいります。それができ次第、数年の間に基本設計ですとか、実施設計を行わせていただいて、工事に着手してまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

○司会（浦杉会長）

ありがとうございました。

続きまして、矢田小校区からは、国森とそれから矢田のほうと2点出てございます。

まず、国森町代表町内会長の杉浦様、お願いいたします。

○国森町代表町内会長（杉浦会長）

国森町町内会長総代の杉浦と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

2 件目としまして、矢田小学校区の住民増加に対する教育現場の対応遅れについて質問させていただきます。

矢田小学校区の住民増加が分っていたにも関わらず、推移予測がされていなかったと思われ。その結果、小学校では教室数不足、それとあと保育園では教員不足などが発生しています。なぜこうなったのか、理由と今後の対応を、時系列をもって説明していただきたいと思っております。

「1,000人になることは、いつから予想されていたのか。分かっていたとしたら、なぜ対応できなかったのか。生徒が増えれば、もちろん戸数が増え、共働き戸数が増加することも分かっていたはずだが、教員数のやりくりができておらず、教育に支障はないか」といったことが、全てあいまいな予想から始まって、後手になっています。どのように收拾をつけるのか、明確にお答えしていただきたいと思っております。

○司会（浦杉会長）

市長、お願いします。

○中村市長

杉浦さん、どうもありがとうございました。

2 件目、矢田小学校区の住民増加に対する教育現場の対応遅れについて、少し長くなりますが、お答えをさせていただきます。

まず矢田小学校のことにつきましては、本当に地域住民の方々にご迷惑をおかけいたしておりまして、大変申しわけなく思っております。

矢田小学校におきましては、平成28年度に軽量鉄骨校舎の8教室を増築しましたが、増築時の児童数の推移予測では、平成28年度の30教室、児童数840人をベースとして、平成29年度は33教室、児童数約900人となりました。その後も年々増加し、平成31年度には児童数が1,000人を超え、平成34年度には38教室、児童数約1,080人となり、8教室が不足するという予測で8教室を増築いたしているところであります。

しかしながら、これらの推移予測は、出生率をもとに過去の平均値にて算出をしております。転入・転出等の要因を入れ込むことは非常に難しく、この推移予測には加味できませんでした。今後も矢田小学校区では、区画整理等により年々児童数が増加することが想定されており、また児童数の推移予測をより正確に捉えることは、対策を講じるためには必要不可欠と考えており、専門業者への事業委託も予定しております。その専門業者へのその推移予測の委託をした結果をもとに、児童数及び教室の不足数の想定を行い、学校用地の拡張のために用地を確保し、増築することを大前提に、小学校と十分協議をしながら、教室不足が生じないよう対応してまいります。

なお、教員数については、学級数に応じた県の教員定数配当基準により適切に対応しておりますので、ご承知いただければと思います。

次に、保育園関係について、お答えをさせていただきます。

平成29年4月1日現在、矢田保育園では、3、4、5歳児の受け入れはできております。また、矢田つぼみ保育園では定員を超える申し込みがありますが、3歳以上児で入園できなかったお子さんについては、矢田保育園を第2希望としていただければ受け入れができる状況にありまして、3歳未満児のお子さんについては、近隣にある平坂保育園、中畑保育園、寺津保育園で受け入れ体制を整えているところであります。

このように、定員を超える場合におきましても、校区の範囲に限らず近隣の保育園での受け入れも可能でありまして、また、保育園における職員についても不足していない状況でありますので、必ずしも第一希望というわけにはいかないかもしれませんが、ご理解をお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

○司会（浦杉会長）

細かくご回答をいただきまして、ありがとうございます。

続きまして、矢田小校区もう1件ございます。古居会長、お願いいたします。

○矢田小校区代表町内会長（古居会長）

矢田小校区代表町内会長の古居でございます。よろしく願いいたします。

3件目は、信号交差点での右折車による交通渋滞についてでございます。JA西三河矢田平東支店近くのコンビニがある交差点と、その南の上矢田交差点が非常に混雑し、渋滞しております。

西尾市街地から寺津方面に行くとき、これらの交差点を右折する車があれば、信号を1回ほど待たなくてはなりません。よい解決方法がありましたら、お聞かせいただきたいと思っております。

3件目は以上でございます。

○司会（浦杉会長）

市長、お願いします。

○中村市長

古居さん、ありがとうございました。

3件目、信号交差点での右折車によります交通渋滞について、お答えをさせていただきます。

ご質問の道路は県道刈宿住崎線と思われませんが、この道路を管理いたします愛知県へ渋滞対策の計画について問い合わせをいたしましたところ「これらの交差点については、現在のところ右折車線設置などの交差点改良計画はありません」とのことでありました。

右折車両に起因いたします渋滞の解消方法といたしましては、矢印信号の設置が一般的であります。この当該交差点と言いますのは2か所とも右折専用通行帯というものがなく、また、この通行帯を設置するための用地確保もなかなか困難な状況でありますので、現在のところ右折矢印信号を設置することができない状況となっております。

しかしながら、南側の上矢田交差点におきましては、交差をする市道側に歩道設置の計画というものが現在ありまして、現在は設置に向けた用地交渉を行っているところであります。今後、用地の協力が得られましたら、この歩道設置に合わせて当該交差点ですので、上矢田交差点になります。歩行者のための滞留スペースというものを確保して、その後、公安委員会と時差式の信号などの設置協議を進めていきたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。

○司会（浦杉会長）

ありがとうございました。今後の対策をよろしくお願いたします。

それでは、続きまして、平坂小学校区へまいります。平坂小学校区は楠村町と平坂町で2点出ております。

まず楠村町の松井さん、お願いたします。

○楠村町代表町内会長（松井会長）

ただいまご紹介にあずかりました楠村町代表町内会長の松井と申します。よろしくお願いたします。

4件目ですけれども、私どもからは、旧名鉄三河線の跡地を活用した道路の整備について2点ございます。その1点目が、まずは安全安心対策に関する要望でございます。その内容は、歩道付きの道路の新設に関する案件でございます。

私ども、楠村町向山という地区、それからあと東前田、それから南・北荒子等がございます。特に住宅が密集しておりまして、道路事情が悪い。これを言っただけですけれども、区画整理がされていないと思うんです。だから、増えるんです。朝、特に通勤ラッシュ、子どもさんの通学、そういうことで時間帯が重なるため安心して子どもが通学できないということが地域住民の方から、再三話がきております。そういうことで、で

できれば楠村天満宮の方向、市長、ご存知ですね。楠村天満宮、平坂中学校。

○中村市長

現場を見てまいりました。

○楠村町代表町内会長（松井会長）

その沿線道路でございます。その道路を何とか貫通して、歩道付きの道をつくっていただきたいというのが要望でございます。この要望書はですね、地元市議を通して再三申し上げております。

それから、もう一つ、私どもは、自分のまちは自分で守ると、そう思っております、防災・減災に関する内容でございます。我々の楠村町は低い。標高が2メートル以下。洪水だとか、大雨といったときに逃げる場所がない。低いですから。ですから、少なくとも、富山町へ抜ける安全な道をぜひ貫通していただきたい。そういうふうに思います。

よろしく申し上げます。

○司会（浦杉会長）

市長、お願いします。

○中村市長

松井さん、どうもありがとうございます。

1点ずつ、お答えをさせていただきます。

4件目の旧名鉄三河線跡地を活用した道路の整備ということではありますが、まず1つ目の、旧名鉄三河線跡地につきましては、今後の整備計画等を踏まえまして、市が道路ですとか水路用地として必要であると判断いたしました103箇所について、平成29年3月17日に最終的な市の意向として名鉄に伝えている状況であります。

ご要望いただきました箇所につきましては、限られた財源で道路整備を行っていく中で、現況、実施することは難しいと考えております。跡地取得の予定については、現在のところ持っていないというのが正直なところであります。まずは当該地域の南北軸となります田貫徳永線というものを、今、整備しているところであります、そちらのほうを先に整備をしていく中で、そうした安全・安心についても確保していきたいというように考えているところでありますので、ご理解をよろしくお願いいたします。

次に、ご要望の2つ目でございます。

ご要望いただきました箇所につきましては、道路整備を予定しております、跡地取得予定箇所といたしまして、名鉄と現在、交渉を進めているところであります。現在、名鉄が三河線廃線敷地の用地確定測量を行っているところであります、取得に向けて、用地の価格交渉等を今後行っていく予定であります。整備の条件が整い次第、対応してまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

○司会（浦杉会長）

ありがとうございました。

それでは、最後の5件目になりますが、平坂町から2項目の要望が出てございますので、小嶋副総代、お願いいたします。

○平坂町（小嶋副総代）

平坂町副総代の小嶋と申します。よろしくをお願いいたします。

5件目は、平坂入江の防災・減災についてでございます。2点ありまして、1点目は、護岸強度の調査に関する質問です。

平坂樋門の改修工事は間もなく完了いたしますが、護岸の強度を心配しております。護岸強度の調査は県が行っているとお聞きしておりますが、調査はどの程度まで進んでいますでしょうか。

2点目は、護岸補強の施工要望です。

平坂樋門から上流は、水深が浅いため貯水量が少なく、水災害の発生原因となっております。そこで、過去には浚渫をしていただきましたが、両岸の護岸壁の強度が弱く、十分な浚渫ができませんでした。平坂樋門から上流、平坂橋までの防災・減災対策として、護岸補強を施工していただけないでしょうか。

5件目は以上です。

○司会（浦杉会長）

市長、お願いします。

○中村市長

小嶋さん、ありがとうございます。

5件目となります平坂入江の防災・減災のうち、初めのご質問についてお答えをさせていただきます。

護岸強度の調査につきましては、管理者であります愛知県衣浦港務所に問い合わせをしたところ「平坂樋門南側の護岸については、平成27年度に調査を開始し、平成29年度中には完了する見込みで、その後は、調査結果に基づき、地震津波対策として護岸補強の整備を進めていきたいと考えております」とのことでありましたので、ご承知いただければと思います。

次に、ご要望についてお答えをさせていただきます。

護岸補強につきましては、管理者であります愛知県衣浦港務所に問い合わせたところ「平坂樋門南側の護岸補強後、引き続き平坂樋門から上流の護岸についても護岸補修の整備を進めていきたいと考えております」とのことでありました。

なお、私自身も防災対策の重要性というのは十分認識しているところでありまして、10月4日には、愛知県知事が会長を務めております、愛知県河川海岸堤防等地震津波対策事業推進協議会というものがあるのですが、そこの一員といたしまして国土交通省に出向いて、堤防等の耐震対策事業への補助拡大の要望活動を行ってまいりましたので、よろしくをお願いいたします。

○司会（浦杉会長）

ありがとうございました。的確なご回答をいただきました。厚く御礼申し上げます。

私ども平坂地区から事前にお伝えしました全ての意見、そして質問などに対しましては、ただいま回答がございました。

ここで、回答に対するご質問などをお受けしたいと思えます。発言にあたりましては、挙手をお願いします。私が指名させていただきますので、町内会名とお名前をおっしゃってからご発言をお願いいたします。

なお、限られた時間でございますので、要旨をなるべく簡潔にまとめていただいてご発言いただければと思っておりますので、協力のほど、お願いいたします。

それでは、ご発言のある方は挙手をお願いいたします。

○楠村町（マツ様）

マツでございます。先ほどの富山町への横断道路の件ですが、これはいつ頃の予定でございますか。

○司会（浦杉会長）

担当部署、お願いいたします。

○渡邊建設部長

建設部長の渡邊と申します。よろしくお願いいたします。

楠村町から富山町のほうへ抜ける道路でございますが、先ほど市長がお答え申し上げましたように、現在、名鉄と用地取得等の交渉等も行っており、申し訳ありませんが、ここで何年までに抜けるという正確なスケジュールはちょっとお答えできませんので、よろしくお願いいたします。

○司会（浦杉会長）

マツさん、よろしいですか。

○楠村町（マツ様）

はい、分かりました。

○司会（浦杉会長）

それでは、関係者と連絡をとりながら進めていただきたいと思います。

その他ございましたら、どうぞ。

○矢田小校区長寿会（ムラマツ様）

矢田小校区長寿会のムラマツと申します。

現在、矢田ふれあいセンターで、教室、場所の利用許可を申し込むにあたり、私たち

は2か月先のことまでは受けていただけますけれども、それ以後のことは受けていただけません。私たち長寿会は、西尾市社会福祉協議会に所属して奉仕をしているわけですし、年間の行事計画も全て出して、地区長28人、それで会議室を借りているわけです。毎月1日になりますと申し込みに行くのですけれども、私たちは、第1の木曜日は地区長会議ということで決めておりますので、その第1木曜日の場所がとれるか、とれないかということで、いつも不安を抱えているわけです。

我々、西尾市の社会福祉協議会に所属していて、一応、市の名前のついた団体に所属しており、年間の行事予定表も出しておりますので、それを見て、ふれあいセンターの職員の方、あるいは生涯学習課ですかね、団体の年間計画表を参考にしてもらって、2か月先ではなくて、年間を通して利用許可を出すようにしていただくと、いちいち毎月1日に利用許可証を取りに行くということが省けますので、それをひとつ考えてもらいたいのです。

聞くとお聞きによりますと、市の諸団体の名前のつくところは、素早くという言葉は悪いですが、2か月先でも申し込みが優先的に受け入れられて、我々の長寿会のような団体は受けつけておられないと、このようなことですので、ひとつ、長寿会、年間行事予定表を出す団体には便宜を図らしてもらって、1年まとめて受け付けていただくようお願いしたいです。

○司会（浦杉会長）

担当部署、お願いいたします。

○新實教育部次長

教育部次長の新實と申します。ご意見、どうもありがとうございます。

ここで今のご意見に対して、いいですよと答えするのは難しいことですので、持ち帰らせていただいて、よく検討させていただくということでもよろしいですか。

○矢田小校区長寿会（ムラマツ様）

よろしいです。

○新實教育部次長

皆さんがより使いやすいふれあいセンターとなるよう努めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

○司会（浦杉会長）

ありがとうございました。

ここで、皆様方へお願い申し上げます。今の時間帯は、先ほどの事前質問等に対する回答のさらなる質問ということですので、他のご質問は、この後の自由意見交換の時間をお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

他にございますか。どうぞ。

○中畑小校区（カサ様）

お願いします。先ほど私のほうで提案させていただいた件ですけれども、以前、コミュニティの関係者と一緒にお伺いしたときに、それなりの目標というのか、案は持っているけれども、もう少し考えて方向性が決まってから改めてお示ししますので、しばらくお待ちくださいという話だったのですが、先ほど市長が、決定する前にご意見をお伺いしたいというようなことを言われたと思いますので、完全な方向性が決まってから提示されても、ちょっと意見を申し上げるすきがなくなってしまうと思いますので、その辺を適宜お知らせいただきたい。

それから、こちらの意見や要望をするタイミングをつくってほしい、そのように思いますので、お願いします。

○司会（浦杉会長）

ありがとうございました。

それでは、今の質問に対してご回答のほうは。

○新實教育部次長

どうもありがとうございます。日ごろからいろいろとご意見をいただいております、ありがとうございます。

おっしゃるとおり、決まる前にご意見は伺ってまいりたいと考えております。その点は、連携をとりながら良いものにしていきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

○中畑小校区（カサ様）

よろしくお願いします。

○司会（浦杉会長）

ありがとうございました。その他にございましたら。

○楠村町（マツイ様）

すみません。何回も。今、現在、旧名鉄三河線、寺津高架のところですね。その沿線に道路があり、天満宮から南北に走る道があります。そこを朝の通勤ラッシュのときなど、猛スピードで走る車があります。町内会長さんから、スピード制限をつけてくださいとすごく要望が出されており、再三お願いしているのですけれども、まだ連絡が私のほうに全然届いておりません。ご検討していただいているのですかね。事故があったら大変ですからね。私ども再三お願いしていますから、迅速な対応、それに関する回答をいただきたい。そういうことを申し上げておきます。

駅舎だったところに南北の道があります。猛スピードで走る車があります。制限速度の標識をつくっていただきたいと。事故になると大事です。よろしく願いいたします。

○司会（浦杉会長）

関係部署、お願いいたします。

○小塚危機管理局長

危機管理局長の小塚と申します。よろしくお願いいたします。

危機管理局では、工事要望があった場合に警察と協議させていただいております。今、おっしゃられたことを再度確認いたしまして、ご報告をさせていただきます。

よろしく申し上げます。

○楠村町（マツイ様）

出せるんですね、要望書を。

○小塚危機管理局長

その辺も確認させていただきたいと思います。

○司会（浦杉会長）

ありがとうございました。よろしいですか。

○楠村町（マツイ様）

はい。

○司会（浦杉会長）

他にございましたら。どうぞ。

○国森町（スギウ様）

矢田のスギウです。よろしく申し上げます。

先ほどの小学校に関する質問について、推移表を民間のほうに委託しているという話は聞いたのですが、それがいつ頃できるのかを明確にお答えいただきたいということ、それから、その推移表に対しての改善案が絶対に出てくるはずなのですね。その改善案が地区に対しても明確に示されるのか、皆さんが納得できるような改善案が出てくるのかということをもう少しお答えいただきたいのですが、よろしく申し上げます。

○司会（浦杉会長）

よろしく申し上げます。

○新實教育部次長

ご意見、ありがとうございます。

これからなのですけれども、専門業者に児童数の推移の調査を委託してまいります。年度内には、その集計をしまして、それから改善案を考えていくということになるかと思えます。その改善案につきましては、日ごろから町内会長さんを始めとして、常にお話をお聞きしながら連携させていただいておりますので、そういったことも、もちろん決まる前にお話をさせていただき進めてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。

○司会（浦杉会長）

ありがとうございました。よろしいですか。

○国森町（ｽｷﾞ ｳ様）

はい。

○司会（浦杉会長）

いかがでしょうか。

それでは、皆さん方からのご質問が出尽くしたかと思えますが、これから先、こういったことがございましたら、直接市の担当のほうに連絡させていただいて、ご質問なり、ご要望をしていただきたいというふうに思います。

では、ここからは自由意見交換の時間として進めてまいります。時間はおおむね午後8時15分までとさせていただきますので、よろしくお願いたします。

皆様には、先ほどの地区とりまとめの意見、あるいは質問などにかかわらず、まちづくりに対するご提案、ご意見、また地域の困り事、関心事などがございましたら、ご発言いただければと思っております。

なお、市長からお話がありました市政運営に関する質問などがございましたら、ご発言いただきたいと思います。先ほどと同じように、ご発言がございましたら挙手をお願いしまして、私が指名させていただきますので、町内会名とお名前をおっしゃってください。多くのご発言をいただけるように、できるだけ質問内容を簡潔にさせていただきますように、ご協力をお願い申し上げます。

では、どうぞ。どなたかございましたら、遠慮なく挙手をお願いたします。

ここでは発言しにくいということもあろうかと思えますけれども、今日は堅苦しい会議ではございませんので、皆さん方、それぞれお思いになっていること、あるいは行政で、このようにしたほうがいいのではないかとといったことがございましたら、遠慮なくご発言いただきたいと思います。はい、お願いたします。

○矢田町（ｶﾞﾀ 様）

矢田のｶﾞﾀと申します。今から申し上げることに対して、回答は強く求めませんけれども、私の思いを一言言わせていただきます。

中村市長さんになられて、新聞などで記事になることとして、1つはP F Iの問題が非常に出ておりまして、私はそれに対して、賛成とか反対とかいうことは申し上げませ

んけれども、1つ心配事といいますか、疑問に感じることは、PFIは実行されれば問題がないということは理解しております。

しかし、市長がおっしゃってみえます、見直すとか、いろいろなことが提案され、また話し合いがされる中において、1つ私は理解できないということと、心配といいますか、思うことがあります。それは、見直しされて、中止されるということになりますと、賠償金の問題、そして罰金とか、そういう問題もあると言われております。私が思いますには、賛成、反対は言いませんけれども、本当に現実的に賠償金とか罰金とか、そういうものを払うことになるですと、私の思いとしては、そのお金があるならば、今日、質問されました矢田小学校の校舎の問題、中畑小学校のふれあいセンター、そういう問題に、例えばその賠償金を払う気ならば、その予算を回していただきたいと思います。市長さんが、説明会をやっていきますとか、計画しておりますとおっしゃって非常にありがたいのですが、賠償金とか罰金を払うなら、その金を要望に回していただいて、それができれば、最初にお話しされましたように、コミュニティとか地域の活性化、そういうものが私は実現できると思います。こうしてほしいとか、ああしたらいけないということは、何も私は言うておりませんが、そういうお金があるならば、そういう使い道もあるのではないかとということだけ、私の意見として申し上げます。

○司会（浦杉会長）

ありがとうございました。

ご意見、要望として受けさせていただいてよろしゅうございますか。

では、市長、よろしく願いいたします。

他にどなたかございましたら。ございませんか。よろしゅうございますか。

○富山町（ｽﾞｷ様）

富山町のｽﾞｷと申します。

つい最近、正式名はちょっとわからないのですが、セアカなんとかというのが自分たちの町内の4区の地区で出たということで、ちょっと問題になっているのです。前に1回、違うところで出たときに、市のほうに対処の仕方を聞いたのですが、かなり西尾市に蔓延しているということで、駆除をお願いしたら町内で対処してほしいというような話の回答をいただいたのですが、今回、そういう問題が出ていて、僕のところに話が来たのですが、何かいい対処方法があるのか、もし、市のほうとしては、こういう駆除方法がありますとか、そういうことがあったら教えていただきたいというように思います。よろしく願いします。

○司会（浦杉会長）

よろしく願いします。

○牧環境部次長

環境部次長の牧と申します。

私のほうで、駆除の関係はちょっと承知しておりませんので、ｽﾞｷ様には、明日、担当者にただ今言われたことについて話し、どのようにしたら対応ができるのかということをご連絡させていただきますので、よろしくお願ひいたします。

○富山町（ｽﾞｷ様）

もう一ついいですか。

そのことに関して町内で対処という場合は、その消毒だとか、そういう対処法を教えてください、それに対する助成というのはあるのですか。

○牧環境部次長

これに対する助成金は、予算的にはないと思っております。しかしながら、防除のための噴霧器については貸し出しすることはできますので、そこら辺、実際にどういうことができるのかも含めて、改めてご回答させていただきたいと思ひます。

よろしくお願ひいたします。

○司会（浦杉会長）

よろしいですか。

では、適切な措置をよろしくお願ひいたします。

その他、ございましたら。

○矢田小校区女性の会（ミヤ様）

矢田小校区の女性の会の会長しておりますミヤと申します。よろしくお願ひします。

矢田小の校区の住民増加に対する教育現場の対応遅れに関係していることかもしれないのですが、先ほど市長は、校舎だったり、教員数だったり、そういう外枠のようなことばかり回答されていたのですけれども、私自身も子を持つ親として、それはそれで心配なのですが、入れる、入れない。それだけではなくて、内容も小学校によっては、生徒数が違うことによって教育に対する差があるのか、ないのかというところが素朴な疑問としてあります。

市長の思いであったり、教育長の思いを今伝えていただけるとちょっと安心するかなと思ひますので、思いを教えてください。

○司会（浦杉会長）

関係部署、お願ひいたします。

○尾崎教育長

教育長の尾崎でございます。本当に生徒数の増加に対して後手に回っていることに、大変申し訳なく思っております。ただ、先ほど言いましたように、教育をするということに対して、大きな学校であろうと、小さな学校であろうと、子どもたちが同じ条件で均等にあるということをきちんと守っていかなければならないのは教育委員会の使命で

あります。

そのような中で、県が示された人数の教員のほかに、県のほうもやっているのですが、市独自で少人数対応ということで、例えば今、西尾市では、3年生については35人を超えると1学級増やして先生を1人充てるとか、それから授業の中で35人の学級を半分に分けて、先生を2人つけて、20人、15人くらいで指導ができるとか、そういうようなことは、どの学校でも同じようにして教育を進めております。

ただ、これも予算の関係がありますので、全部という訳にはまいりませんが、市の予算の中で、矢田小学校に対しても、他の学校に対しても、同じような考えで進めておりますので、ぜひその辺もご理解いただきたいと思います。よろしく申し上げます。

○司会（浦杉会長）

ありがとうございました。

よろしいですか。

では、市長、申し上げます。

○中村市長

教育の内容的なことについては、教育長が申し上げましたとおりであります。行政としては、できる限り、どの学校にいても同じような教育が受けられるようにということで、そういったハードの整備ですとか環境の整備をしていくところがメインになりますので、児童が急激に増加してご心配されているというところは十分理解しておりますけれども、やはり教育というのは、将来的なことを考える一番大事な部分だと思っておりますので、できる限り支障がないようにということは考えておりますので、よろしく願いいたします。

○司会（浦杉会長）

ありがとうございました。

子どもは宝でございますので、子どもに対する教育のほうもよろしくお願い申し上げます。他にございますか。

○地区民生児童委員（7人様）

こんばんは。羽塚地区担当の民生児童委員の7人と申します。

ちょっと細かいことになりましたけれども、市長さん、それぞれ各小学校区青パトというものを活用してもらっておりますけれども、ご存知ですか。この平坂中校区も、曜日指定で青色の回転灯をつけた軽自動車です。それで現在、私たち矢田小校区は、先ほど質問されたカクタさんが矢田校区パトロール隊の隊長で、その隊長のもとに9名のボランティアが活動しております。

それで他の校区をみますと、シルバー人材センターへ委託して、運転を任せてやっているというところがあります。要するに、何が言いたいかというと、シルバー人材センターに委託すると当然経費がかかりますよね。財政的な面は微々たるものだと思います。

けれども、今後、市内の青パトについて民間の業者に委託するのではなくて、地域の住民に移行するような形で持っていったらいかがでしょうか。

○司会（浦杉会長）

よろしくをお願いします。

○小塚危機管理局長

ﾌｧｲ様、ありがとうございます。

青パトの関係につきましては、危機管理課が担当しておりまして、以前「大分年をとってしまい、後継者もおらんくなってしまった」というようなお話も市のほうでは聞いております。そういうこともあります、やはり地域は地域で守ることがありまして、地域の皆様方で安心安全を守っていただくという方針は変わりありませんので、引き続きお願いしたいと思っております。

あと、シルバー人材センターというお話でありますけれども、今、危機管理課では臨時職員として青パトに乗る職員を雇用しておりまして、その人が各小学校区で、この日はこちら、この日はあちらということをお願いしており、これにつきましては、引き続きやっていきたいと思っております。ちょっと年配の方ですのでそう思われたかもしれませんが、シルバー人材センターへ委託しているのではなく、臨時職員ということで雇用しております。すみませんが、地域の方々が青パトに同乗していただければと思っておりますので、引き続きお願いしたいと思っております。

○地区民生児童委員（ﾌｧｲ様）

臨時職員が乗っているのは、市の青パトですか。

○小塚危機管理局長

市の青パトでございます。

乗用車と、あと軽の青パトもあります。小学校に置いてあるものと、あと旧3町地区にも青パトが置いてありますけれども、その運転も担当しております。

○司会（浦杉会長）

ありがとうございました。ﾌｧｲさん、よろしいですか。

○地区民生児童委員（ﾌｧｲ様）

はい。

○司会（浦杉会長）

そのほか、ございましたら。

○矢田小校区（ﾌｧｲ様）

矢田校区代表のﾌｻﾞでございませう。

今日は良い機会でございませうので、とにかく先ほども質問が出ておりますように、矢田小校区は生徒数の増加に悩んでいるということでございませうので、一部、市のほうで用地の対応もしていただいているということで、大変喜んでおります。

ただし、まだまだ、今の話ですと、生徒数の増加が大幅に見込まれるということでございませうので、とにかく大きな用地をとるには、矢田小学校のグラウンドに近接する区画整理によって対応しなければならないことが多くあります。その仮同意はとれているというお話は聞いておりますが、進捗状況等が分かりましたら、教えていただけるとありがたいです。よろしくお願ひいたします。

○司会（浦杉会長）

ただいまのご質問について、いかがでしょう。

○渡邊建設部長

建設部の渡邊でございませう。

区画整理でございませうが、地元から要望等も上がっておりまして、設立の準備、測量等のお手伝いなど、来年度から予算等を確保させていただきながら進めてまいりたいと考えております。

○矢田小校区（ﾌｻﾞ様）

来年度から予算等を考えていただくわけですね。

○渡邊建設部長

予算の確保に努めてまいりたいと思ひます。

○矢田小校区（ﾌｻﾞ様）

ありがとうございます。

○渡邊建設部長

ここで、必ず予算がつくというご回答はできませんが、地元のほうから区画整理のご要望を伺っておりますので、設立に向けて、市としては協力をして進めてまいりたいと考えております。

○矢田小校区（ﾌｻﾞ様）

矢田小学校の基本構想には、ぜひ必要な区画整理でございませうので、早期の進捗をお願ひするものでございませう。よろしくお願ひいたします。ありがとうございます。

○司会（浦杉会長）

ありがとうございます。他にどうですか。

それでは、ご質問、ご意見等が出尽くしたと解釈させていただきまして、これで自由意見交換の時間を終わります。少し時間も早いようですので、市から何か連絡事項がございましたら。

○新實教育部次長

本日の資料の中に、ミュージカル「ブッダ」というチラシを入れさせていただきました。文化振興課関係でありまして、これについて簡単に紹介させていただきます。

1月21日土曜日午後2時から、西尾市文化会館で、西尾市文化事業ミュージカル「ブッダ」を開催いたします。手塚治虫先生の原作で、全国で人気のある劇団「わらび座」によるミュージカルでございます。料金は、指定席3,500円、自由席3,000円で、西尾市文化会館、岩瀬文庫ほか、チラシに掲載してあります場所で販売されておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

○司会（浦杉会長）

ありがとうございました。できるだけ多くの方にご参加いただければと思います。

それでは、私の仕事はこれで終わります、事務局にお返しいたします。ご協力、ありがとうございました。

○細田秘書課長

浦杉会長、ありがとうございました。

それでは、閉会にあたりまして、市長がお礼のご挨拶を申し上げます。

○中村市長

皆さん、今日は1時間半にわたりまして、どうもありがとうございました。

この場では、意見が言いにくかったり、今日は特に思うことがなかったけれども、後日、何か市のほうに聞きたかったことがあったり、そういったこともあるかと思えます。私たちも、市政懇談会というのは2年に1度でありますけれども、別に皆さんと2年に一度しかお会いできないわけでもありませんし、何かご用があつて市長室に来ていただくのはもちろん歓迎ですし、各地区のイベントなどにも足を運ばせていただくこともありますが、自分の顔を見かけましたら、ちょっと、ちょっとという形で呼びとめていただいて、こういうことに困っているのだけれどもと、こうやって気軽にお声かけいただいても結構ですし、また市民の皆さんが市に対して、お声ですとかご要望を届けする手段というのは他にもございます。後ほど説明があるかと思えますけれども、そうした手段を使っていく中で、どういったご意見をお持ちで、どういったことにお困りかということは、今後も率直に聞かせていただきたいと思います。そして、私たちも、皆様方からご意見をいただいて初めて気づくことも正直あるわけでありまして、そういった意味で、一方向的ではなくて、双方でお互いに困っていることとか、市のやることに誤解もあるかもしれませんので、しっかりコミュニケーションをとりながら、今後とも市政運営にあたってまいりたいと思っておりますので、よろしくお願したいと思います。

本日は、どうもありがとうございました。

○細田秘書課長

それでは、最後に、事務局から3点ご連絡いたします。

1点目は、本日、アンケート用紙をお配りしております。今後の事務の参考とさせていただきますので、アンケートにご協力いただきまして、お帰りの際、アンケート用紙と筆記用具を出口の回収箱にお入れいただきますよう、お願いいたします。

2点目でございます。市では、皆様の声を市政運営に反映させるため「市民の声」の制度を設けております。市政にお気づきのことがありましたら、市民の声までご意見等をお寄せください。

最後、3点目でございます。市では、さまざまな機会を通じて市民協働ガイドを行っております。これは、市職員が地域に出向き、市の事業などを分かりやすい言葉でお話しさせていただくとともに、地域の声をお聞きするものでございます。詳しくは、本日お配りしました案内チラシをご覧ください、会合等の際には、ぜひご利用ください。

連絡事項は以上でございます。

それでは、これをもちまして「市長と語る市政懇談会」平坂地区を閉会いたします。交通安全にご留意いただき、気をつけてお帰りください。ありがとうございました。